

取扱説明書 Ver 1.00

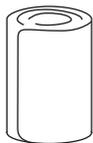
TP-700

ソル Pro.



このたびはスノーピーク製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。この製品はキャンプ用シェルターです。安全にご使用いただくためにも必ずこの取扱説明書をよく読んでからご使用ください。また、読み終わった後も大切に保管してください。製品には万全を期しておりますが、フィールドでご使用する前に安全な場所で組立、取扱い方法及び付属品の確認をしてください。説明内容で理解できない点及び製品に不具合が確認された際には、直ちに使用を中止しご購入いただきました販売店様もしくは弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

## ■ 各部の名称



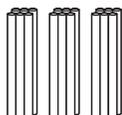
本体×1



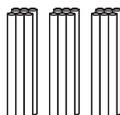
シールドルーフ×1



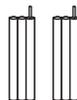
リッジポール×1



Aフレーム×3



Cフレーム×3



アップライトポール  
190cm×2



ジュラピン  
ペグ×34



自在付ロープ  
3.5m×6、2.5m×6  
7m二又×2



シーム  
グリップ剤×1



ペグ  
ケース×1



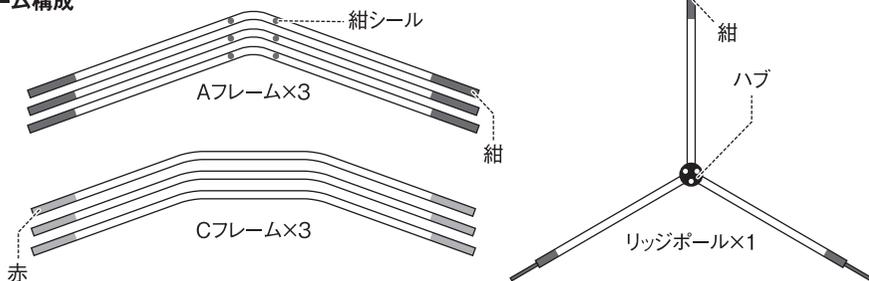
フレームケース×1



キャリーバッグ×1

セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携行することをお勧めします。

## ● フレーム構成



## ● 部分名称



**ご使用前に** よく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

**⚠ 危険** 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

**⚠ 警告** 場合により重大な事故に至る行為を示します。

**⚠ 注意** ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

## 取扱上の注意

**⚠ 危険** 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

- このシェルターの素材は難燃性ではありません。シェルター内では燃烧式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなどの裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災の恐れがあり大変危険です。
- シェルター内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。



**⚠ 警告** 場合により重大な事故に至る行為を示します。

- 気象状況には常に細心の注意を払い、風の強いときや悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して安全な場所へ避難してください。
- 高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。天候によりテント内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、最新の注意を払ってください。
- 風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。



**⚠ 注意** ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 本製品は常設用ではありません。
- 日差しにより本体表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分ご注意ください。
- たき火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- シェルターの設営・撤収の際は、風に飛ばされないようフレームをしっかりと支えて作業してください。フレーム先端のハネ返しなどで思わぬ事故に繋がる恐れがありますので必ず周囲の安全を確認してください。
- ペグや張り綱でしっかりと固定して使用してください。
- テント素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起きますので、常設用として使用しないでください。

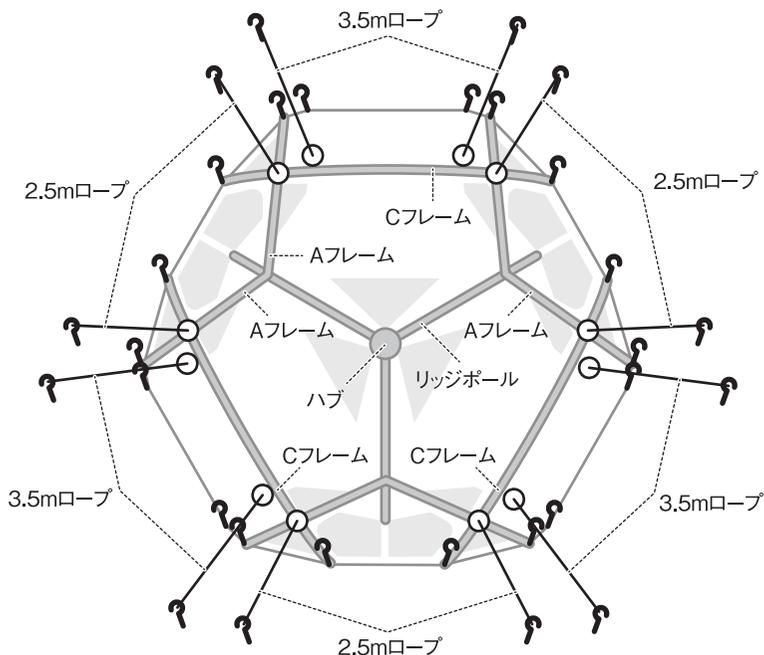
## 使用前の準備

### ● シームグリップ剤による目止め

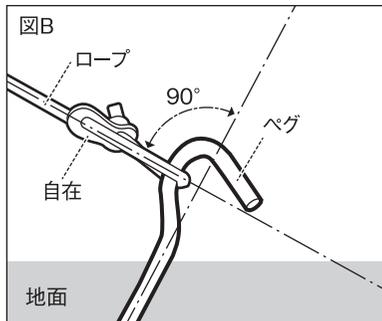
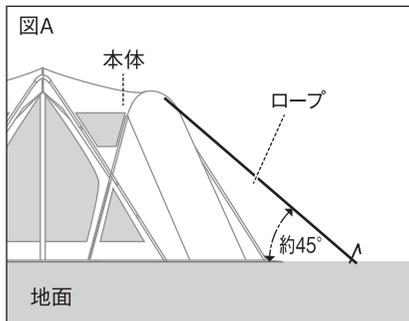
縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、ループやトグルを縫い留めている縫製部、ファスナーフラップを縫い留めている縫製ライン等は、製造の都合上または構造上、シームテープが施せない部分があります。通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が浸入することがありますので、必要に応じて縫い目にシームグリップ剤(目止め液)を塗布してください。シームグリップ剤は時間とともに硬化していきます。剥離した時は塗布しなおしてください。指定以外の場所から侵入した場合は、必要に応じて目止めを行ってください。

### ● 張網(自在付ロープ)、ペグダウンの位置

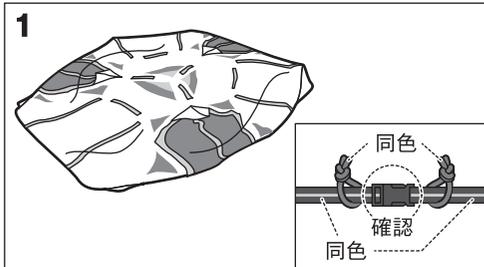
張網の固定、ペグダウンは下図のように行ってください。



ペグダウンはシェルターからできるだけ遠くに行ってください。設置したとき、ロープの角度が地面に対し約45°となるのが理想的なペグダウンの位置です。〔図A〕また、ペグを打ち込む角度はロープに対して90°になるようにペグダウンします。〔図B〕



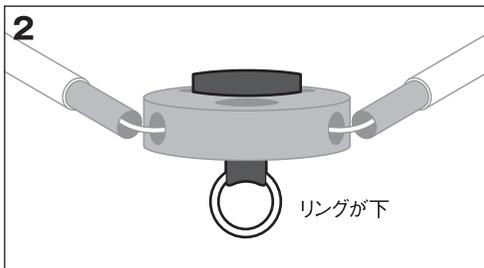
**設営** 設営は必ず2人以上で行ってください。



**本体を広げます。**

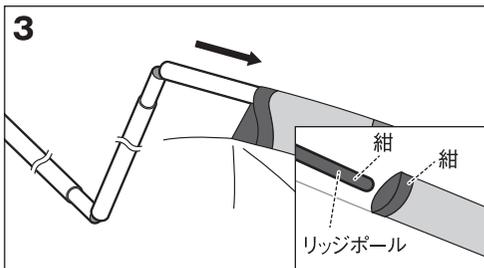
本体を広げます。フィールドに対して、出入口の向きを考慮してください。このとき、ビルディングテープのバックルが全て留まっていることを確認してください。

バックル近くに付属している紐は赤色、黄色、緑色の3種類、ビルディングテープは黒とグレーの2種類があります。ビルディングテープのバックルを外して使用した後、つけ直す時はバックルのオス部、メス部のビルディングテープの色、紐の色が合うようにつけ直してください。



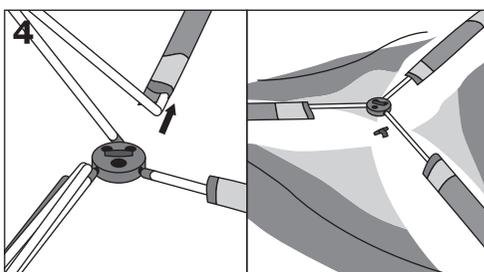
**ハブの向きを確認します。**

リッジポールの中心部にあるハブの向きを確認します。リングがある方が下になる様にしてください。



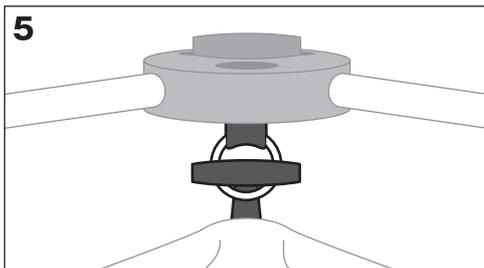
**リッジポールをスリーブへ差し込みます。**

リッジポールは三またになっており、ジョイントしてからはスリーブに刺し込めませんので、一節ずつジョイントを接続しながらスリーブに差し込んでください。



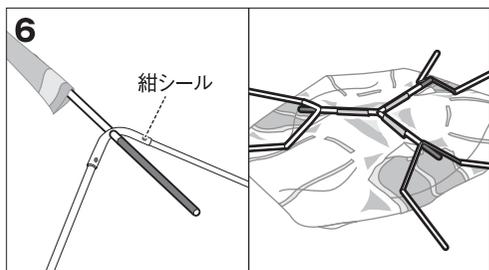
**他2本のリッジポールもスリーブへ差し込みます。**

他2本のリッジポールも「3」同様に一節ずつジョイントを接続しながらスリーブに差し込んでください。最後にハブに確実に接続してください。

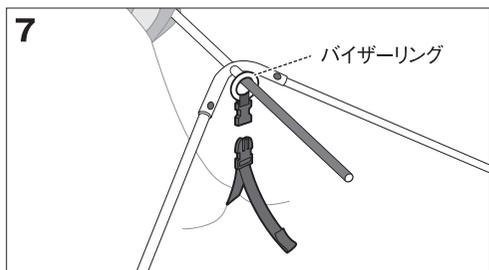


**ハブの中心のリングにトグルを掛けます。**

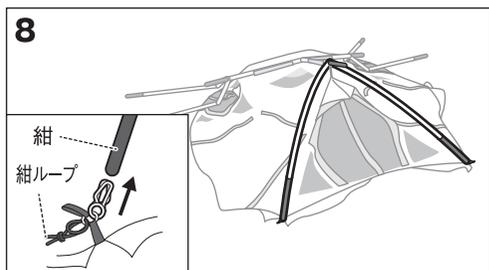
ハブ中心にあるリングに、本体の中心部にあるトグルを掛けます。



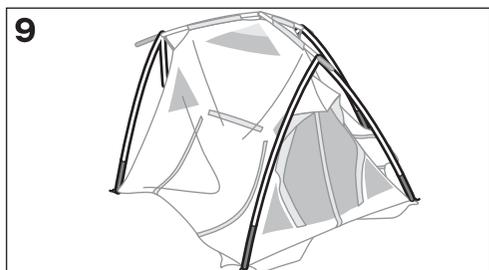
**6** **Aフレームをリッジポールに接続します。**  
 Aフレームに付いている細シールが外側に向くようにリッジポールを差し込みます。リッジポールの先端が最後までAフレームに差し込まれている事を確認してください。このとき、Aフレームを1節ないしは2節程度の長さまででジョイントしておく、後行程がスムーズに行えます。



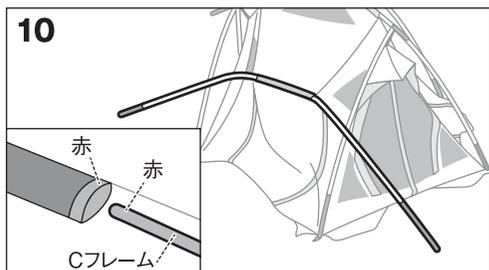
**7** **バイザーリングを突き出したリッジポールに掛けます。**  
 本体に付いているバイザーリングをバックルの部分から取り外し、Aフレームから突き出したリッジポールに通し、再びバックルに取付けます。このとき調整ベルトを緩めておいてください。



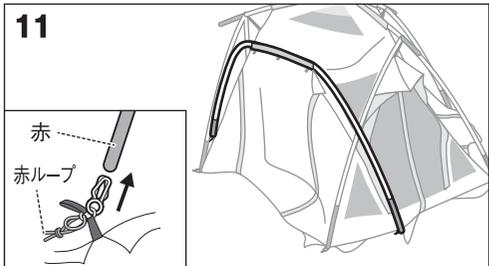
**8** **Aフレームを全てジョイントし、ピンを差し込みます。**  
 Aフレームの先端に細ループが付いたピンを差し込みます。このとき、Aフレームの両端を同時にピンに差し込みますので、2名以上で作業してください。フレームとピンの間に指を挟まないよう気をつけてください。



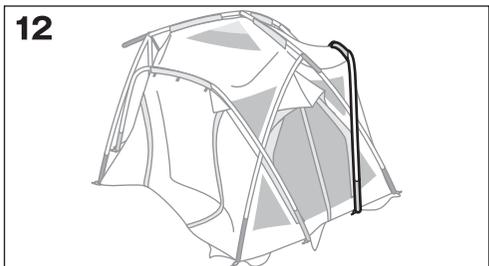
**9** **他2本のAフレームも全てジョイントし、ピンを差し込みます。**  
 Aフレームの先端に細ループが付いたピンを差し込みます。フレームとピンの間に指を挟まないよう気をつけてください。この段階で、一旦本体が自立しますが、設置時に風がある時は風上側のペグダウンループを2～3カ所仮固定して作業を進めてください。



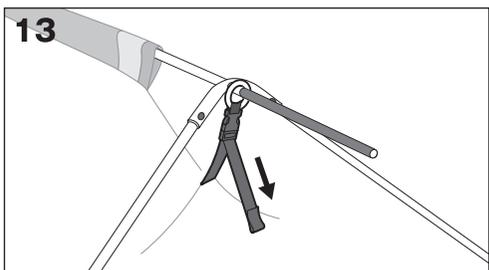
**10** **Cフレームをスリーブに通します。**  
 フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを「押し入れる様に」挿入してください。引っ張ると各ジョイントが抜けますのでお止めください。このときCフレームがAフレームの外側になるように通してください。



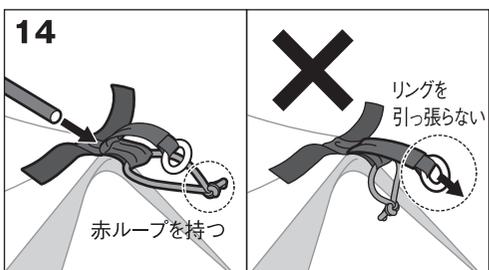
**Cフレームにピンを差し込みます。**  
Cフレームの先端に本体ボトム部の赤ループが付いたピンを差し込みます。フレームの両端にそれぞれピンを差し込んでください。フレームとピンの中に指を挟まないよう気をつけてください。



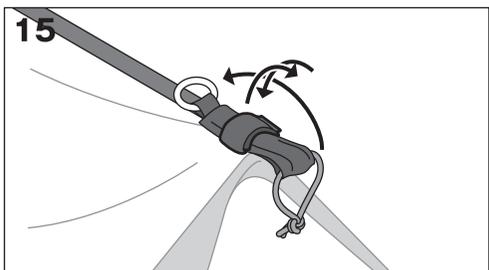
**他2本のCフレームにもピンを差し込みます。**  
他2本のCフレームの先端に本体ボトム部の赤ループが付いたピンを差し込みます。フレームの両端にそれぞれピンを差し込んでください。フレームとピンの中に指を挟まないよう気をつけてください。



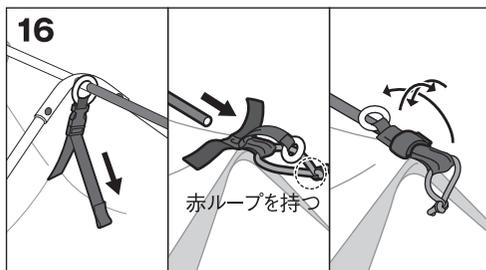
**バイザーリングのベルトを引き、調整します。**  
「7」でリッジポールに通したバイザーリングのベルトを引き、調整します。



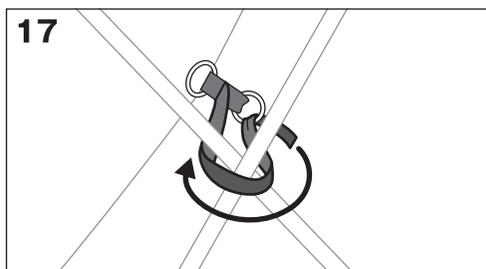
**突き出したリッジポール先端をバイザーについたポケットに差し込みます。**  
リッジポール先端をバイザーについたポケットに差し込みます。このとき、リングに指を掛けて作業すると、ポケットが破損する可能性があるため、必ずポケット先端の赤いループに指を掛けて作業してください。  
※テープ先端のOリングにリッジポールを通さないようにしてください。



**ポケット部のベルクロを留めます。**  
バイザーについたポケット部のベルクロをリッジポールに巻き付けるように留めます。

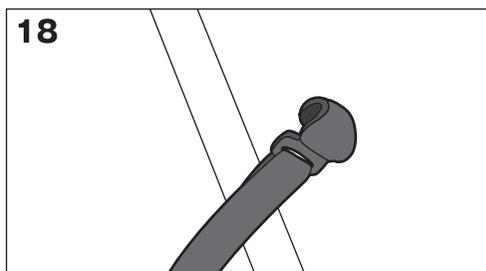


他2ヵ所も「13」「14」「15」同様に作業を行ってください。



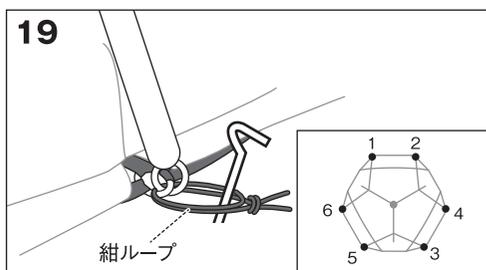
**AフレームとCフレームの交点をベルクロで留めます。**

AフレームとCフレームの交点を本体に付いているOリング付きのベルクロで留めます。このとき、必ず2本のフレームを束ねるようにベルクロを固定します。



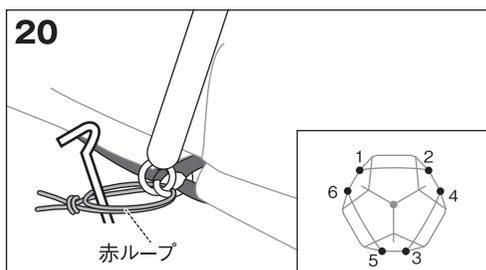
**本体に付いているブラフックをフレームに掛けます。**

本体に付いているブラフックをそれぞれフレームにかけます。このとき、上の方から順にフックを掛けて行くと作業がスムーズです。



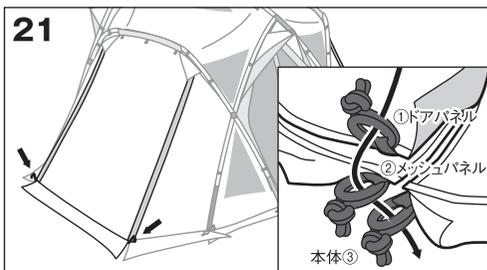
**紺ループ (Aフレーム) をペグダウンします。**

本体ボトム部分6ヵ所にある「紺」のループをペグダウンします。ペグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ペグダウンの位置」に従ってください。

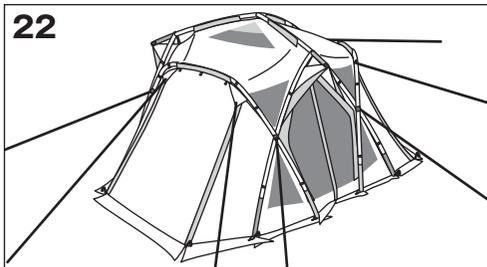


**赤ループ (Cフレーム) をペグダウンします**

本体ボトム部分6ヵ所にある「赤」のループをペグダウンします。ペグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ペグダウンの位置」に従ってください。

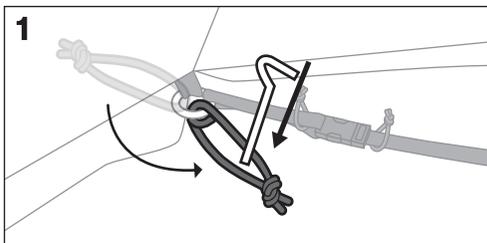


**21** ドアパネルのボトム部分をペグダウンします。  
 ドアパネルのボトム部分にあるゴムループをペグダウンします。ゴムループは片側3つありますが、図の順番にゴムループをペグダウンしてください。ペグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ペグダウンの位置」に従ってください。

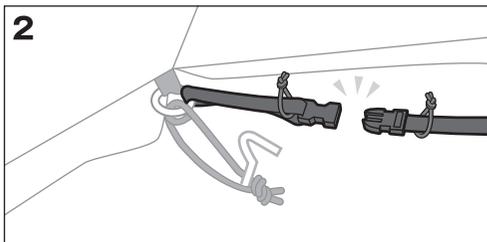


**22** 張り網をペグダウンし、全体を調整して本体の設営完成です。  
 ペグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ペグダウンの位置」に従って、張り網をペグダウンし、最後に全体を見て、調整ベルトの締め具合やロープの引き具合などを調整して、本体の設営完了です。

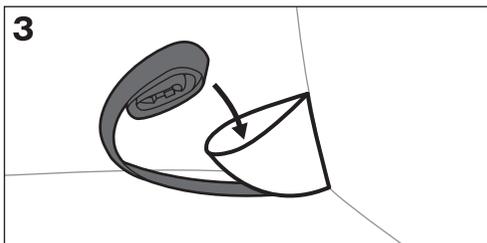
### ビルディングテープを外す場合



**1** ペグダウンの位置をシェルター内側へ打ちかえます。  
 シェルター外側にペグダウンしたペグを内側へ打ちかえます。ビルディングテープを外した際、シェルターが外側へ広がるのを防ぐためです。  
 シェルター内側へペグダウンする場合は、金属製のリングに2重に通っているペグダウンループを、図の様に1周分だけ長く引き出してペグダウンします。



**2** ビルディングテープを外します。  
 ペグを内側へ打ちかえた事を確認し、ビルディングテープを外します。

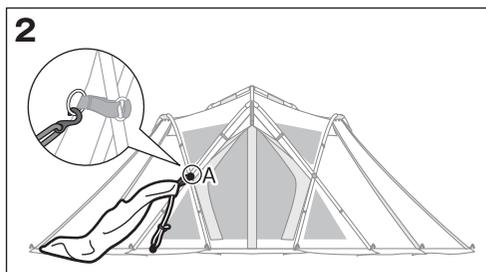
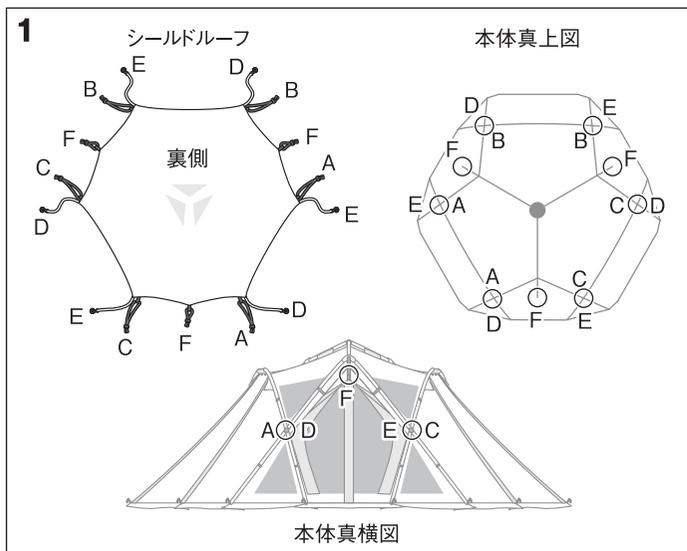


**3** ポケットへ収納する  
 外したビルディングテープは丸めて、ビルディングテープ根元付近にある収納ポケットへ入れます。

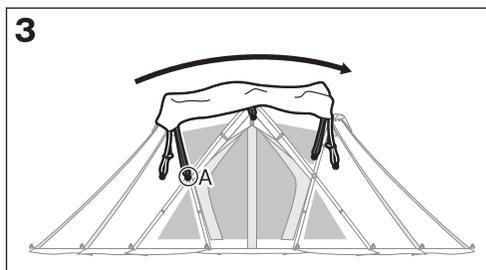
バックル近くに付属している紐は赤色、黄色、緑色の3種類あります。ビルディングテープのバックルを外して使用した後、つけ直す時はバックルのオス部、メス部のビルディングテープの色、紐の色が合うようにつけ直してください。

**シールドルーフの取付** ※降雨が予想される時は必ずシールドルーフをつけてください。

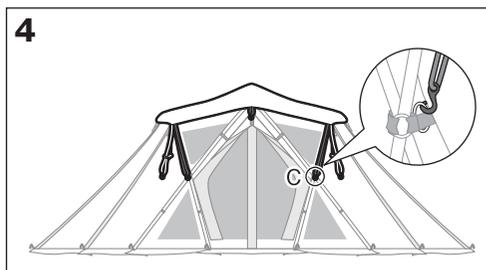
シールドルーフを裏返しに広げ、ソルPro.本体との接続箇所を確認します。



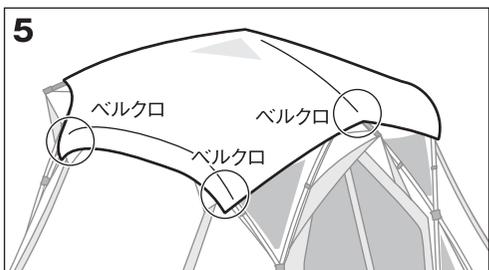
「A」の箇所をフックを掛けます。  
裏返しのまま「A」の箇所のフックを掛けます。反対側の「A」の箇所も同様にフックを掛けます。



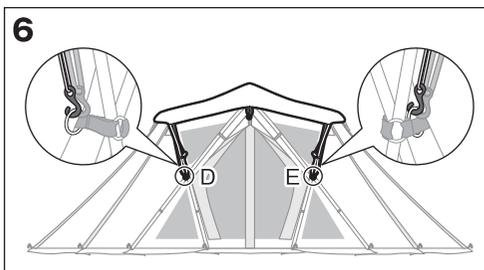
ひっくり返しながら本体に掛けます。  
「A」のフックが外れないように、シールドルーフをひっくり返しながら本体に掛けていきます。



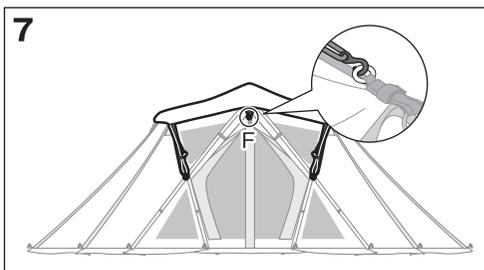
「B」「C」の箇所のフックを掛けます。  
他、「B」「C」の箇所も同様にフックを掛けます。



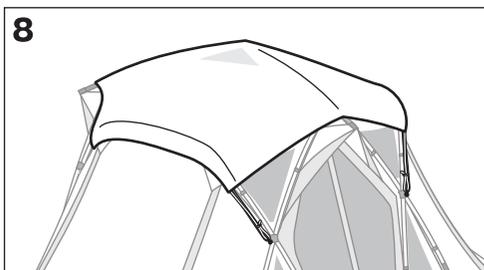
「F」の箇所とCフレーム上部の裏面にあるベルクロを留めます。



「D」「E」の箇所のフックを掛けます。反対側の箇所も同様にフックを掛け、自在金具を調整します。このとき、シールドルーフがCフレームを覆う様に被さっている事を確認してください。

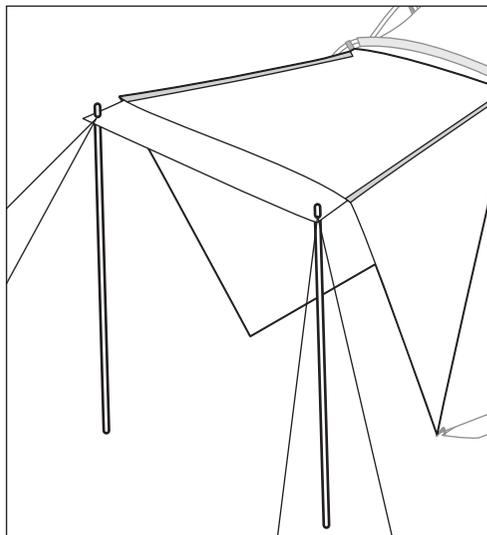


「F」の箇所のフックを掛けます  
「F」の箇所のフックをバイザーのポケット上についたリングに掛けます。



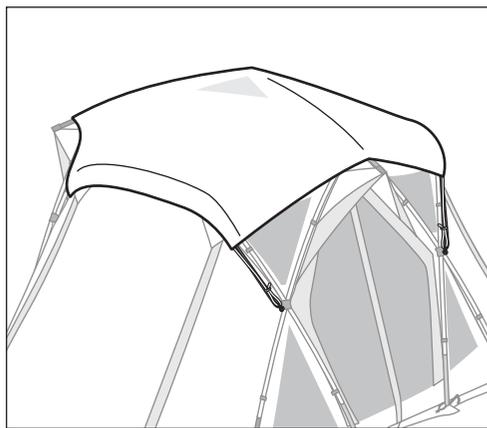
全体を調整して完成です。

## その他の使用方法



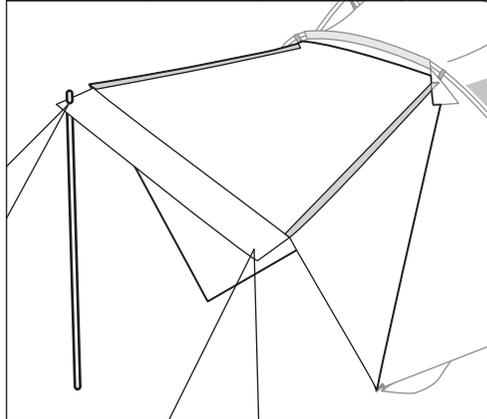
### ドアパネルのハネ上げ

ドアパネルは付属のアップライトポールを使用してハネあげることが可能です。



### 雨天時対処方法

降雨が予想されるときや不意の降雨に備えて就寝前には必ずシールドルーフをつけてください。



降雨の際にパネルをはね上げる時は、片方のポールを外し、直接ロープをペグダウンし、ドアパネルを斜めにしてください。

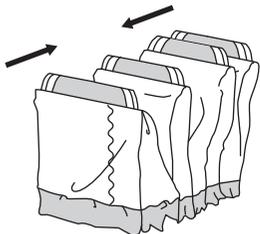
※風邪が強いときはドアパネルを閉じてください。

## 撤収について

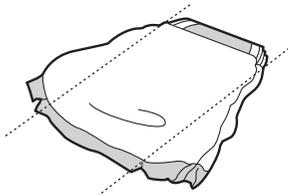
撤収は設営と逆の手順で行いますが、インナーテントを取付けた場合は、必ずインナーテントをフライシートから取り外して収納してください。

## 収納方法

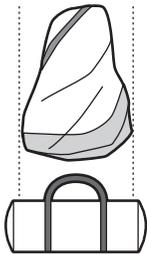
1 フレームを抜き、スリーブを頂点として畳みます。



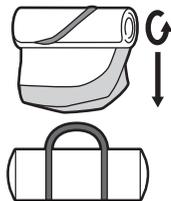
2 スリーブ部分を残して畳みます。



3 キャリーバッグの幅に合うまで折りたたみます。



4 丸めて収納します。  
空気を抜きながら丸め、キャリーバッグへ収納します。



## 結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特に狭いテント等の空間では、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり、結露の発生する確率が高くなります。原因としては、人体構成要素の約60%を占める水分が、呼吸や汗などにより放出され、水蒸気となりテント内に結露が発生します。テント内では、特にフライシート・ボトム部分などの防水性能が高い部分に結露が発生しやすくなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のために適時換気を行ってください。

## 撥水・防水性能について

- 本製品はいずれの生地にも高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能(撥水の仕方や耐久性)に若干の差が見られる場合があります。また、ご使用を重ねますと撥水性能が低下する場合があります。性能が低下した場合は市販の撥水スプレー等を、それらの説明書をよくお読みの上ご使用ください。
- 防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜りなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

## 紫外線の影響について

- 本製品にはルーフの生地にもUVカット加工を施しています。UVカット加工は、人体にとって有害な紫外線の透過を抑えると共に、生地への強度劣化を緩和します。

※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。

## メンテナンス・保管

- 本製品はポリエステル生地を組み合わせで使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。
- 濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落としてから保管してください。
- フレームを通した状態のまま逆さまにしないでください。フレーム折損や生地損傷の原因になります。
- フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食、強度が低下します。ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油シミができますのでご注意ください。また、フレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
- フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。
- 高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
- ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使い常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油シミができますのでご注意ください。
- 小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書をよくお読みください。
- ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。
- 次回の使用に備え、張り綱などの付属品も含め、十分に保守・点検をしてください。
- シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるにしたがい剥離してしまう場合があります。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。PUコーティングが一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
- 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
- 使用する際にフレームが折れてしまった場合は、応急処置として速やかに添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収をしてください。

## 品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期してありますが万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正な価格で修理させていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は保証、修理できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

1. 取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
2. 素材の経年劣化による製品の寿命。
3. 改造及び粗雑な扱いによる製品の故障。
4. 不測の事故による製品の故障。
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
6. ゴミやサビによる故障。
7. 分解したことによる不具合の発生または破損。
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
9. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
10. 他社製品との組合せによる故障。

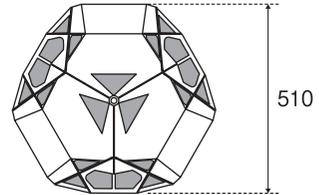
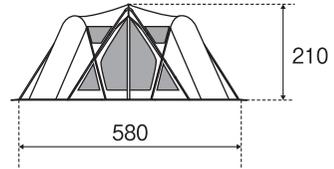
## 修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
  - 1.保証対象の場合：往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
  - 2.保証対象以外の場合：往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

## スペック

- 材質:本体 / 150Dポリエステルオックス・遮光ピグメントPUコーティング耐水圧3,000mmミニマム・テフロン撥水加工・UVカット加工(ルーフ部)、150Dポリエステルオックス・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム(ウォール部)、75Dポリエステルタフタ・遮光ピグメントPUコーティング耐水圧3,000mmミニマム・テフロン撥水加工・UVカット加工(シールドルーフ)、210Dポリエステルオックス・PUコーティング(スカート部)、フレーム / A6061 (φ19mm、φ16mm、φ13mm)
- セット内容:本体、シールドルーフ、リッジポール(×1)、Aフレーム(×3)、Cフレーム(×3)アップライトポール190cm(×2)、ジュラピンペグ(×34)、自在付ロープ(3.5m×6、2.5m×6、7m二又×2)、シームグリップ剤、ペグケース、フレームケース、キャリーバッグ
- キャリーバッグサイズ:40×80×40(h)cm
- フレームケースサイズ:20×70×20(h)cm
- 重量:25.5kg

単位はcm



不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

**スノーピークユーザーサービス**

 **0120-010-660** (9:00~17:00)

Email: [userservice@snowpeak.co.jp](mailto:userservice@snowpeak.co.jp)

**株式会社スノーピーク**

〒955-0147 新潟県三条市中野原456

Tel. 0256-46-5858 Fax. 0256-46-5860

[www.snowpeak.co.jp](http://www.snowpeak.co.jp)

MADE IN CHINA